



子どものO脚について	1ページ
Gifts(ギフト) ゴスペルコンサートを開いて/職員のリフレッシュについて	2ページ
5病棟の生活のひとこま®/「やまぼとギャラリー・個展」情報コーナー/異動のごあいさつ	3ページ
短期入所サービスをご利用のみなさまへ/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

子どものO脚について

下肢弯曲の自然経過



子供の下肢の弯曲は、成長に伴い変化します。一般的な経過は、乳児の頃は、大多数がO脚で、両方の下肢をそろえると両膝の内側がつかず、内側に弯曲しています。その後、このO脚の弯曲は軽くなり、両下肢はまっすぐに向います。そして、2歳頃にまっすぐを通り越し、3~4歳で逆のX脚のピークとなり、外側に弯曲するようになります。さらにその後、徐々にX脚の傾向は軽くなり、最終的に小学校低学年に、少しX脚程度に落ち着き、大人の弯曲の状態となります。

生理的O脚



幼児期にみられるO脚のほとんどが、病的でないO脚で、生理的O脚と呼ばれ、ほぼ自然に改善傾向となります。しかし、まれに病的なO脚が含まれるため、注意を要します。

2歳前後ですと鑑別が難しいこともあり、経過で判断することも重要です。

病的O脚



- Blount病(ブラント病): 脛骨内側の骨の成長障害で手術が必要となることが多いです。
- ビタミンD抵抗性くる病: 代謝性疾患で、小児科治療が必要。低身長を伴います。
- ビタミンD欠乏性くる病: 極端な食事制限、日光照射不足、極端な母乳栄養などによります。
- その他の代謝性疾患、骨系統疾患、外傷、感染、腫瘍など稀に見られることがあります。

受診についての留意点



- 高度肥満を伴う
- 片側のみに見られる
- 低身長を伴う
- 他の関節にも変形を認める
- 3歳過ぎてても内反が残っている

大多数は生理的O脚ですが、鑑別が困難な場合や、程度によっては治療を要するものなどもありますので、お気軽に専門医にご相談ください。

O脚変形の推移



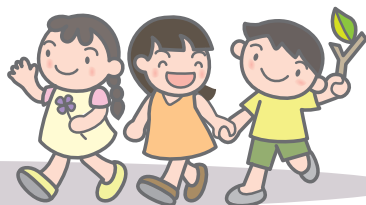
1歳9カ月時



1歳10カ月時
装具療法



4歳6カ月時



(整形外科 西山 正紀)